

# 令和4年度 外国語科・外国語活動実践・研究計画

部 員	○藤田 峻, 佐々木 絵理子, 石田 智之, 鎌田 雅子, 進藤 由貴子, 猿田 千穂子
-----	--

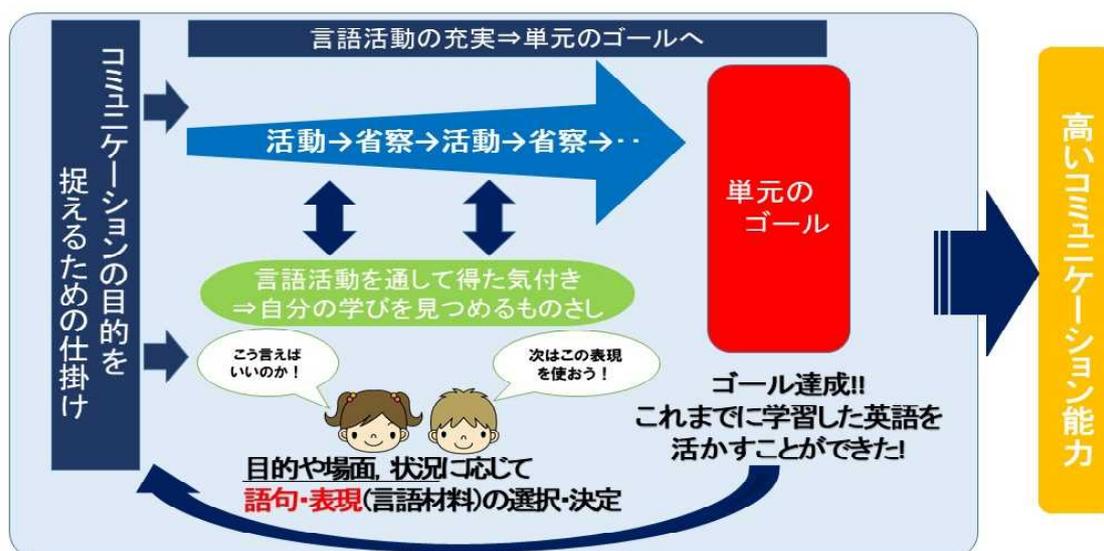
研究テーマ  
**自分の考えや気持ちを伝え合う活動を通して、外国語を用いたコミュニケーション能力を積極的に高めようとする子どもを育む学び**

## 1 研究テーマについて

グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定される。また、情報化に伴い、オンラインでの交流はより身近なものとなり、世界中の様々な言語や文化を有する人々と容易につながるできるようになった。コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、外国語で互いの考えや気持ちなどを、言語材料を駆使して理解したり、伝え合ったりするところに教科の本質がある。そこで、外国語を用いて自分の考えや気持ちなどを伝え合うことに喜びを感じ、主体的にコミュニケーションを図っていく姿を期待し、本研究テーマで実践を積み重ねていく。

外国語科・外国語活動で目指す自律した子どもの姿

- ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、必要な語句や表現を選択・決定し、言語材料を駆使して自分の考えや気持ちなどを伝え合う子どもの姿
- ・実際に外国語を用いて互いの考えや気持ちなどを伝え合う中で、内容面や言語面での新たな気付きを見いだし、次の学びへつなげようとする子どもの姿



図：外国語科・外国語活動 自律した学習者を育てる学習のプロセス

## 2 研究の重点 <○は具体的な取組の例>

よりよいコミュニケーションにつながる省察のものさしを、子どもが使えるようにするための手立て

- コミュニケーションに必要な言語材料をインプットするために、効果的なモデル提示の場を設定する。
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況等における自分の考えや気持ち、相手のニーズや思いに着目し、言語材料を駆使して伝え合う場を設定する。
- ICT機器やポートフォリオを活用し、内容面や言語面での気付きを記録することを通して、次の学びにつながる省察の場を工夫する。